



## 平成31年5月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年4月12日

上場会社名 株式会社IGポート

上場取引所 東

コード番号 3791 URL <http://www.igport.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石川光久

問合せ先責任者 (役職名) 管理担当執行役員 (氏名) 栗本典博

TEL 0422-53-0257

四半期報告書提出予定日 平成31年4月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年5月期第3四半期の連結業績(平成30年6月1日～平成31年2月28日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年5月期第3四半期	6,696	4.4	517		518		507	
30年5月期第3四半期	6,411	37.7	536	168.5	596	199.9	242	156.5

(注) 包括利益 31年5月期第3四半期 569百万円 ( %) 30年5月期第3四半期 336百万円 (316.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年5月期第3四半期	103.51	
30年5月期第3四半期	50.71	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年5月期第3四半期	9,027	4,722	51.7
30年5月期	10,161	5,369	51.1

(参考) 自己資本 31年5月期第3四半期 4,671百万円 30年5月期 5,197百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年5月期		0.00		5.00	5.00
31年5月期		0.00			
31年5月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年5月期の連結業績予想(平成30年6月1日～平成31年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,062	7.6	434		435		209		42.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年5月期3Q	5,055,400 株	30年5月期	5,055,400 株
期末自己株式数	31年5月期3Q	148,442 株	30年5月期	148,442 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年5月期3Q	4,906,958 株	30年5月期3Q	4,776,055 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	10
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調で推移しているものの、海外の経済・政治情勢が不安定なことや金融市場の変動の影響等、先行きについて不透明感が高まっております。

このような事業環境のもと、当社グループはアニメーション作品の企画・制作を行う映像制作事業、コミック雑誌等の企画、製造、販売及び電子コミックスの配信を行う出版事業、作品の二次利用による印税・収益分配金等を得る著作権事業に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,696,437千円（前年同期比4.4%増）、経常損失は518,637千円（前年同期は596,735千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は507,899千円（前年同期は242,191千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

#### ① 映像制作事業

映像制作事業におきましては、劇場用アニメーション「バースデー・ワンダーランド」、配信用アニメーション「ULTRAMAN」、テレビ用アニメーション「フューチャーカード 神バディファイト」「風が強く吹いている」等、その他ゲーム用のアニメーションを制作しました。

新規受注の映像制作では、現況に合った確度の高い映像制作予算の策定による受注額の交渉を始めておりますが、前連結会計年度から続いている映像制作については、引き続きCG制作費や外注費の高騰、制作期間の長期化により厳しい状況が続いています。

以上により、当事業の売上高は4,691,978千円（前年同期比30.1%増）、営業損失は531,000千円（前年同期は399,470千円の営業損失）となりました。

#### ② 出版事業

出版事業におきましては、新刊の月刊誌「コミックガーデン」、コミックス「魔法使いの嫁 10巻」「あまんちゅ! 13巻」「リィンカーネーションの花弁 9巻」等、定期月刊誌9点並びに新刊コミックス・書籍61点を刊行しました。

また、既刊コミックスの「リィンカーネーションの花弁」シリーズは、特に販売好調でありましたが、前年度にメディア化された「魔法使いの嫁」「曇天に笑う」シリーズ等の既刊コミックスの需要が一巡したこともあり、書店流通向けの売上が低調に推移しました。

以上により、当事業の売上高は778,952千円（前年同期比39.8%減）、営業利益は54,398千円（前年同期比84.5%減）となりました。

#### ③ 著作権事業

著作権事業におきましては、「魔法使いの嫁」「進撃の巨人」「銀河英雄伝説 Die Neue These」「B: The Beginning」等のシリーズタイトルを中心に、二次利用による収益分配を計上しました。

「魔法使いの嫁」の海外販売が落ち着いた事や、前年同期に比べ映像マスター及びコンテンツ資産等の減価償却費が265,326千円増えました。

以上により、当事業の売上高は1,053,620千円（前年同期比20.1%減）、営業利益は36,104千円（前年同期比94.7%減）となりました。

#### ④ その他

その他事業におきましては、雑誌のイラスト描きやキャラクターの商品化、スマートフォン向けアプリ等により、当事業の売上高は171,886千円（前年同期比10.9%減）となり、営業損失は3,664千円（前年同期は20,846千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,134,073千円減少し9,027,367千円となりました。主な要因は受取手形及び売掛金が471,583千円、前渡金が248,190千円増加し、一方、現金及び預金が1,154,809千円、仕掛品が575,023千円、コンテンツ資産が287,640千円減少したことによるものであります。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ487,650千円減少し4,304,727千円となりました。主な要因は短期借入金が150,000千円増加し、一方、受注損失引当金が174,556千円、前受金が150,249千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ646,422千円減少し4,722,639千円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純損失の計上や利益剰余金の配当金の支払いにより利益剰余金が528,985千円、非支配株主持分が120,306千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年5月期の業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績と連結子会社である株式会社ジーバックの映像制作の事業譲渡を踏まえて、本日(平成31年4月12日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成31年2月28日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,525,861	2,371,052
受取手形及び売掛金	927,199	1,398,783
商品及び製品	116,099	153,340
仕掛品	2,567,587	1,992,564
貯蔵品	8,498	8,191
前渡金	244,505	492,696
その他	149,668	146,421
貸倒引当金	△5,210	△4,069
流動資産合計	7,534,210	6,558,979
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	527,209	512,797
土地	658,162	658,162
映像マスター(純額)	274,679	280,270
その他(純額)	51,644	144,656
有形固定資産合計	1,511,695	1,595,886
<b>無形固定資産</b>		
コンテンツ資産	679,522	391,881
その他	32,374	50,240
無形固定資産合計	711,897	442,122
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	130,996	152,935
その他	312,881	317,683
貸倒引当金	△40,240	△40,240
投資その他の資産合計	403,636	430,378
固定資産合計	2,627,229	2,468,387
資産合計	10,161,440	9,027,367

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成31年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	682,363	640,910
短期借入金	—	150,000
1年内返済予定の長期借入金	73,320	62,527
未払金	531,788	483,870
未払法人税等	84,153	38,545
前受金	1,911,311	1,761,061
預り金	233,204	297,756
賞与引当金	—	43,914
役員賞与引当金	37,666	3,962
役員退職慰労引当金	—	28,000
返品調整引当金	40,663	31,253
受注損失引当金	348,340	173,784
その他	361,142	175,678
流動負債合計	4,303,953	3,891,264
固定負債		
長期借入金	247,002	202,805
株式給付引当金	35,496	35,496
退職給付に係る負債	57,092	47,178
役員退職慰労引当金	43,694	46,915
その他	105,140	81,068
固定負債合計	488,425	413,463
負債合計	4,792,378	4,304,727
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	781,500	781,500
資本剰余金	2,132,016	2,132,016
利益剰余金	2,545,435	2,016,449
自己株式	△258,300	△258,341
株主資本合計	5,200,651	4,671,625
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△3,532	△623
その他の包括利益累計額合計	△3,532	△623
非支配株主持分	171,943	51,637
純資産合計	5,369,062	4,722,639
負債純資産合計	10,161,440	9,027,367

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年6月1日 至平成31年2月28日)
売上高	6,411,855	6,696,437
売上原価	5,144,931	6,474,611
売上総利益	1,266,924	221,826
返品調整引当金繰入額	9,030	—
返品調整引当金戻入額	—	9,410
差引売上総利益	1,257,894	231,236
販売費及び一般管理費	721,302	748,292
営業利益又は営業損失(△)	536,592	△517,056
営業外収益		
受取利息	152	177
為替差益	—	3,229
受取賃貸料	27,958	19,877
補助金収入	48,986	1,517
その他	11,019	2,674
営業外収益合計	88,116	27,476
営業外費用		
支払利息	1,661	1,252
為替差損	3,214	—
賃貸収入原価	16,763	14,642
雑損失	6,334	9,854
その他	—	3,307
営業外費用合計	27,973	29,056
経常利益又は経常損失(△)	596,735	△518,637
特別利益		
関係会社清算益	17,880	—
特別利益合計	17,880	—
特別損失		
減損損失	29,191	3,261
特別損失合計	29,191	3,261
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	585,424	△521,898
法人税、住民税及び事業税	244,542	50,912
法人税等調整額	8,125	△314
法人税等合計	252,667	50,598
四半期純利益又は四半期純損失(△)	332,756	△572,496
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	90,565	△64,597
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	242,191	△507,899



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年6月1日 至平成31年2月28日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	332,756	△572,496
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3,604	2,909
その他の包括利益合計	3,604	2,909
四半期包括利益	336,361	△569,586
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	245,796	△504,989
非支配株主に係る四半期包括利益	90,565	△64,597

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年6月1日至平成30年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	版權事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,606,035	1,294,560	1,318,393	6,218,989	192,866	6,411,855
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,606,035	1,294,560	1,318,393	6,218,989	192,866	6,411,855
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△399,470	349,916	687,627	638,073	△20,846	617,226

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 千円)

利益	金額
報告セグメント計	638,073
「その他」の区分の利益	△20,846
のれんの償却額	△8,654
全社費用(注)	△71,980
四半期連結損益計算書の営業利益	536,592

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失29,191千円を計上していません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成30年6月1日至平成31年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,691,978	778,952	1,053,620	6,524,551	171,886	6,696,437
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,691,978	778,952	1,053,620	6,524,551	171,886	6,696,437
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△531,000	54,398	36,104	△440,496	△3,664	△444,161

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△440,496
「その他」の区分の利益	△3,664
全社費用(注)	△72,895
四半期連結損益計算書の営業損失	△517,056

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失3,261千円を計上しております。

(追加事項)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(重要な後発事象)

(子会社の事業譲渡)

当社は、平成30年11月20日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社ジーベックの映像制作事業を株式会社サンライズに譲渡することを決議し、平成31年3月11日に事業譲渡の最終契約を締結、平成31年4月1日に事業譲渡いたしました。

その主な内容は、次のとおりであります。

(1) 譲渡の目的

当社連結子会社である株式会社ジーベックは、平成7年5月の設立からテレビ向けアニメーション制作を中心に事業を行ってまいりました。同社は、映像制作事業の赤字が長期化し、作品への出資等による収益分配を得る著作権事業においてもこれを補填できない状況が続いてきました。

この間、長期シリーズ作品の受注による収益の安定化、経営体制の見直し、拠点集約を目的とした本社移転等による業績の改善策を実施してきましたが、人気コンテンツの制作能力を有しながらも企業グループ内における成果は停滞し、企業集団の再編を含めて今後の方向性を模索しておりました。

このような状況において検討を重ねてきた結果、オリジナルの知的財産を数多く保有する譲渡先の主導のもとに体制の構築を図ることが同社の本事業と雇用を継続させ、経営資源を有効かつ安定の方向に維持させることができるものと判断いたしました。

(2) 譲渡対象事業

株式会社ジーベックにおけるアニメーション制作を主とする映像制作事業。ただし、一部技術部門(ポストプロダクション部門)を除きます。

(3) 譲渡資産、負債の項目

資 産	
項 目	帳簿価額
差入保証金	18百万円
流動資産	1百万円
合 計	19百万円

負債はありません。

(4) 譲渡価額及び決済方法

譲渡価額 300百万円

決済方法 現金による決済

(連結子会社の吸収合併)

当社は、平成31年4月5日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社プロダクション・アイジーと株式会社ジーバックは、株式会社プロダクション・アイジーを存続会社として吸収合併（以下、「本合併」といいます。）することを決議いたしました。

(1) 本合併の目的

本合併の消滅会社となる株式会社ジーバックは、平成30年11月20日公表「連結子会社の事業譲渡に関するお知らせ」のとおり映像制作事業の事業譲渡等による組織再編を行い、その後も映像作品の二次利用による収益分配を得る著作権事業を継続しておりますが、業務の効率化を図るため連結子会社間の吸収合併を行うことといたしました。

(2) 本合併の要旨

① 合併の日程

取締役会決議日（当社、合併当事会社）	平成31年4月5日
合併契約締結日	平成31年4月5日
株主総会決議日（合併当事会社）	平成31年4月5日
合併実施予定日（効力発生日）	令和元年6月1日（予定）

② 合併の方式

株式会社プロダクション・アイジーを存続会社とする吸収合併方式で、株式会社ジーバックは解散いたします。

③ 合併に係る割当の内容

当社の100%子会社間の合併であるため、本合併による株式、金銭、その他の財産の交付はありません。

④ 消滅会社の株主権利及び新株予約権付社債に関する取扱い

当社の100%子会社間の合併であるため、本合併による株式、金銭、その他の財産の交付はありません。

(3) 本合併の当事会社の概要

	存続会社	消滅会社
商号	株式会社プロダクション・アイジー	株式会社ジーバック
本店の所在地	東京都武蔵野市中町二丁目1番9号	東京都西東京市西原町一丁目4番1号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 石川光久	代表取締役社長 石川光久
事業内容	アニメーション等映像作品の企画・制作及び関連事業	アニメーション企画・制作及び関連事業
資本金	10百万円	10百万円
設立年月日	平成19年11月1日	平成7年5月1日
発行済株式総数	200株	200株
決算期	5月31日	5月31日
大株主及び持株比率	当社 100%	当社 100%

(4) 本合併後の状況

本合併にともなう存続会社の名称、所在地、代表者の役職・氏名、事業内容、資本金の額、決算期は変更ありません。

(5) 今後の見通し

連結子会社間の合併であるため、本合併による当社連結業績への影響は軽微であります。